

# 大学におけるポピュラー音楽人材教育プログラムに関する考察 — 日米のジャズ・ポップス専攻を有する大学カリキュラムの比較調査 —

*Developing Popular Music Human Resources in Japan*  
— *Lessons from a Comparative Study of the Popular Music Department's Curriculum*  
*at American and Japanese Universities* —

上田 浩司 *Hiroshi Kanda*  
(芸術学部)

## はじめに

米国では1940年代より、大学で専門分野としてジャズ・ポピュラー音楽を学べる教育課程を設置している歴史があり、多くの大学で専攻コースと教育内容が充実している。日本の音楽大学においては、長年伝統的なクラシック演奏もしくは作曲・理論系の専攻が中心であったが、ジャズ・ポピュラー音楽教育の需要の高まりと共に、1990年代より短期大学・大学課程においてジャズ・ポピュラー音楽が専門プログラムとして設置されるようになった。現在その数は12大学（2018年度）にのぼるが、これらの大学の卒業者がポピュラー音楽業界で多数活躍しているかという点、そうではない。むしろ、ポピュラー音楽業界の中では少数である。これは、クラシック音楽系の職業を得る条件を鑑みると、全く異なる状況であることがわかる。ジャズやポップスなどのポピュラー音楽関連の職業に就く上で、大学での専門的な学びや卒業資格が評価される条件となっている例はほとんど無い。また、ポピュラー音楽人材の現実的な職業であるミュージックスクール講師を採用する企業側においても、大学のポピュラー音楽教育課程の卒業者がどのような知識や技術を有しているかの認識が無いのが実際である。これは、どの他の分野と比べても“専門家(職)”として大学で学んだ内容について社会的認知がされていないと言い換えることができる。その要因の一つが、ポピュラー音楽大国である米国の大学カリキュラムと大きく違いを見せる日本の大学システムやカリキュラム構成にあると考えられる。

日米の大学システムの大きな違いは認証機関の有無である。米国では専門分野ごとに認証機関が設置され、教育・教養の質の保証を担保するための機能が明確に存在する。一方、日本の大学におけるポピュラー音楽の教育カリキュラムは、各大学独自のものとなっており、米国のように認証機関による統一された基準に則って作られていない。その事が、大学のポピュラー音楽教育に対する社会での曖昧なイメージに繋がっていると考えられる。

本研究では、国内のポピュラー音楽コースのニーズが増加傾向にあることを踏まえ、音楽業界や実社会での認識や需要との乖離の改善を目的とし、日米の大学ポピュラー音楽プログラムの比較調査を通してポピュラー音楽人材育成の今後の課題について考察を行う。

## 1. 研究の概要

本研究の目的は、米国大学との比較調査を通して、日本のポピュラー音楽人材教育プログラムの課題を考察することにある。比較対象に米国大学を限定した理由は、上述の通り米国の認可大学での各専攻プログラムのカリキュラムが、アクレデーションによる統一基準に沿って構成されているからである。そのため教育内容の質保証がされており、比較対象として適切であると判断した。米国大学のプログラム選定においては、“Jazz Studies”を含む以下の著名大学3大学のものとした<sup>1)</sup>。理由としては、ポピュラー音楽を学ぶ専攻コースは、各大学で Jazz Studies、Commercial Music、Contemporary Music、Popular Music などの名称が使用されているが、大学ガイドブックや Web サイトにおいては、クラシック演奏コース（Classical Instruments Performance）に含まれないポピュラー系音楽に関する専攻（演奏/作編曲/教育）を総合的に Jazz Studies と扱うことが一般的だからである。これは現在のポピュラー音楽演奏・作編曲の基礎はジャズ理論であり、その考えに基づいて米国大学での教育が長年行われてきたことに関係する（上田，2009）。これに合わせて、日本の大学においても米国大学の“Jazz Studies”に相応するジャズコースあるいはポピュラーコースのプログラムを持つ大学として以下の3大学を選定した<sup>2)</sup>。

1. Berklee College of Music（マサチューセッツ州）  
Bachelor of Music in Performance
2. University of Southern California（カリフォルニア州）  
Bachelor of Music in Jazz Studies with Instrumental Emphasis
3. Musicians Institute（カリフォルニア州）  
Bachelor of Music in Performance
4. 洗足学園音楽大学（神奈川県）  
音楽学科 ジャズコース/ロック&ポップスコース
5. 昭和音楽大学（神奈川県）  
音楽芸術表現学科 ポピュラー音楽コース
6. 名古屋芸術大学（愛知県）  
芸術学科 ポップス・ロック&パフォーマンスコース

今回の研究では、特に演奏専攻（Performance Major）にフォーカスしての比較調査を行う。その理由として、米国大学のジャズ・ポピュラープログラムでは演奏専攻や作・編曲専攻そして教育専攻まで多様であるが、日本の大学ではほぼ全ての大学が演奏メインであるため、演奏専攻でのカリキュラムを比較することが適切と判断した。

## 2. ポピュラー音楽人材教育プログラムに関する比較調査

### 2.1. 米国大学・音楽プログラムのアクレディテーション

まず、本研究が比較対象とする米国大学の音楽プログラムの質保証について概観する。

米国には日本の文部科学省のように国が大学を認定・評価するシステムは存在しない。その代わりに連邦教育省 (U.S. Department of Education) や大学団体である CHEA (Council for Higher Education Accreditation) の認証を受けたボランタリーなアクレディテーション機関 (Accreditation Agency) が大学の認定を行う。そして、このアクレディテーション機関は大学そのものを認定する機関 (Regional Accreditation Agency) と医学、芸術、建築、ビジネスなど専門プログラムごとに認定を行う機関 (Professional Accreditation Agency) に分かれる。特に専門アクレディテーションの認定を受けたプログラムは、一定の専門教育水準を満たしており、授与される学位が公的に認定されることを意味する。音楽分野については、NASM (National Association of Schools of Music) がアクレディテーション機関である。この NASM に認定された大学のプログラムは、基準に沿った教育内容が保証されることであり、それは言い換えると、どの大学であってもそこを卒業した者がどのようなスキルを身につけているかについて、各大学間や実社会での共通認識が存在することである (上田, 2003)。ここで NASM のハンドブック (NASM, 2017) に記されているジャズ専攻音楽学士課程 (Bachelor of Music in Jazz Studies) プログラムの規定を以下に示す<sup>3)</sup>。

Guidelines ... study in the major area, including performance studies, ensemble participation, studies in composition, arranging, and improvisation, independent study, field experiences, and recitals, should comprise 30-40% of the total program; supportive courses in music, including basic musicianship studies, 20-30%; general studies 20-30%. Studies in the major area and supportive courses in music normally total at least 65% of the curriculum ... Specific Guidelines for General Studies. Studies in electronic media, African-American studies, and the business aspects of music are particularly appropriate for the jazz musician ... Solo and ensemble experiences in a variety of settings. A senior recital is essential, and a junior recital is recommended. (NASM Hand Book 2017-2018, 2017, pp. 106-107)

この規定の訳および要約をするとともに、具体的な科目名称等の補足を加えた内容を以下に示す<sup>4)</sup>。

1. Study in the major Area 専門科目 (実技レッスン、アンサンブル、作・編曲、即興演奏、個人研究、教育法、卒業リサイタルなど) がプログラム全体 (以下、全体) の30-40%
2. Supportive courses 専門基礎科目 (ソルフェージュ/イヤートレーニング、楽典、音楽理論、ハーモニー、キーボード、音楽史など) が全体の20-30%
3. General Studies 教養科目 (通常の教養科目に加え電子メディア、アメリカの黒人文化歴史、ビジネス科目を含む) が全体20-30%
4. 専門科目と専門基礎科目は原則全体の65%以上

5. ソロからアンサンブルまでの多様な演奏課題と卒業リサイタル (Senior Recital) の実施、また3年次での中間リサイタル (Junior Recital) を奨励

## 2.2. 各大学のポピュラー音楽人材教育カリキュラムの個別調査

ここではポピュラー音楽人材教育カリキュラムを精緻に調査するために、調査対象である日米の各大学のカリキュラムを NASM Jazz Studies の基準と比較し、各大学の特徴を明らかにした。( ) 内の数字は科目単位数を示す。

### Berklee College of Music (マサチューセッツ州)

Semester制：8 学期 音楽学士課程 (B.M. in Performance)

卒業要件：120単位、卒業リサイタル (Berklee College of Music, 2018)

Table 1

Berklee College of Music 120単位の内訳		
科目群	科目名 (単位数)	単位合計数 (%)
専門科目	実技レッスン (10)、アンサンブル (8)、卒業リサイタルワークショップ (7)、読譜 Lab. (2)、ジャズ和声学 (6)、即興演奏の和声学 (2)、アレンジ実習 (2)、専門分野の選択科目 (実技 Lab、アンサンブルなど) (10)	47単位 (39%)
専門基礎科目	楽典・基礎理論 (4)、対位法 (3)、和声学・作曲 (4)、イヤートレーニング/ソルフエージュ (8)、指揮法 (2)、西洋音楽史 (2)、ポピュラー音楽史選択 (2)、選択・ジャンル概論 (2)、アメリカ黒人音楽概論 (2)、社会における音楽 (3)、ミュージックテクノロジー基礎 (2)、ミュージシャンの健康と幸福 (1)	35単位 (29%)
専門科目と専門基礎科の合計		82単位 (68%)
教養科目	キャリアセミナー (2)、教養必修科目 (25)	27単位 (23%)
選択科目		11単位 (9%)

合計 120単位 (100%)

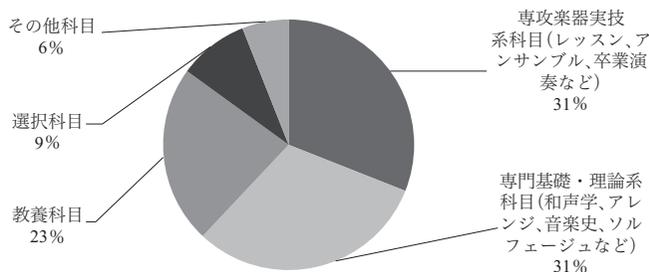


Figure 1. Berklee College of Music 実技系と理論系、その他の科目の割合

ポピュラー・ジャズ専門の音楽単科大学である。まず、すべての項目において NASM の基準に沿ったカリキュラムで構成されていることが認められる。カリキュラムの特徴としては、専門科目の単位数配分が NASM の規定上限にまであり、そこに教育の力点が置か

れていることが分かる。さらに実技レッスンとアンサンブル、読譜・実技 Lab. 卒業リサイタルワークショップの実技系授業については、実際の授業時間と回数に対してそれぞれ単位数が1～2単位と少なく設定されているため、修了までの4年間に於いて相当量の専門実技訓練が行われる。卒業リサイタルの実施は卒業要件であるが、それについての単位数は設定されていない。Lab. (Laboratory) と呼ばれる授業では、読譜、伴奏法、レパートリー研究、ジャンル別の奏法など特定のテーマに集中した実技授業が各楽器ごとに多数開講されていることが最も特徴的な一つである。音楽理論系についても、ジャズ和声と即興演奏和声（コード理論、リハーモナイゼーション、コードプログレッション）が10単位必修であり、この点でも他大学と比較して多い。一方で、専門基礎科目や教養科目については、専門科目のように高比率はない。このことから、本プログラムではNASM規定の学士学位授与に必要な音楽基礎と教養の授業数は確保しつつ、徹底したジャズ・ポピュラー演奏系授業とジャズ音楽理論授業を強調した人材育成がされていることが分かる。

University of Southern California (カリフォルニア州)

セメスター制 (8学期) 音楽学士課程 (B.M. in Jazz Studies)

卒業要件：132単位、卒業リサイタル (University of Southern California, 2018)

Table 2

University of Southern California 132単位の内訳		
科目群	科目名 (単位数)	単位合計数 (%)
専門科目	実技レッスン (16)、アンサンブル (14)、ジャズ音楽理論 (12)、アレンジ実習 (2)、ジャズ音楽史 (4)、ジャズ教育法 (2)	50単位 (38%)
専門基礎科目	楽典・和声学 (6)、イヤートレーニング/ソルフェージュ (4)、即興キーボード (2)、ドラム奏法 (2)、音楽と発想 (4)、音楽史/音楽文化選択科目 (4)、音楽電子メディア選択科目 (4)、音楽ビジネス基礎 (4)、音楽キャリア (2)	32単位 (24%)
専門科目と専門基礎科の合計		82単位 (62%)
教養科目		32単位 (24%)
選択科目		18単位 (14%)

合計 132単位 (100%)

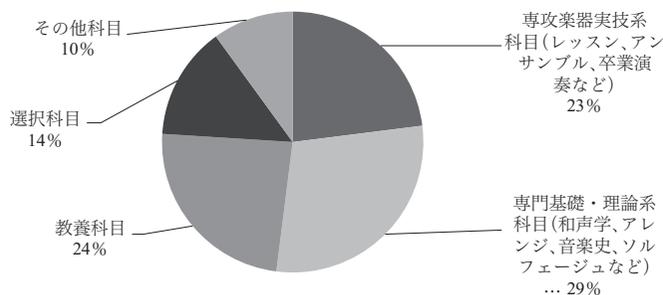


Figure 2. University of Southern California 実技系と理論系、その他の科目の割合

大規模総合大学における音楽専門課程である。カリキュラムはNASMのほぼ基準に沿って構成されている。専門科目と専門基礎科目それぞれの全体での割合は、NASMの基準に沿っているが、専門科目と専門基礎科目の合計は全体の62%とNASM基準や他の米国大学より下回る(基準では原則65%以上)。専門科目群に専門実技系の科目がやや少なめに設定されているが、一方で音楽史や教育法なども含まれている。また、専門基礎科目群に音楽の文化やビジネス・キャリア関連の科目が含まれることも特徴的である。選択科目の割合についても、他の米国大学と比較して高めの設定となっており、教養科目との合計は全体の38%となる。これらのことから本プログラムは、専門実技の教育・訓練を行いながら、同時に多彩な学びを可能とする総合大学の特徴を活かしたりベラルアーツ的な要素を含む教育課程であることが伺える。

### Musicians Institute (カリフォルニア州)

クォーター制 (12学期) 音楽学士課程 (B.M. in Performance)

卒業要件: 180単位、卒業演奏審査合格 (Musicians Institute, 2018)

Table 3

Musicians Institute 180単位の内訳		
科目群	科目名 (単位数)	単位合計数 (%)
専門科目	実技レッスン (24)、演奏テクニック (8)、読譜 (8)、実技パフォーマンス (8)、アンサンブル (12)、卒業演奏審査準備クラス (4)	64単位 (36%)
専門基礎科目	基礎理論 & ハーモニー (15)、イヤートレーニング/ソルフェージュ (11)、キーボード (3)、指揮法 (2)、音楽史 (8)、ジャンル概論 (1)、アレンジ実習 (10)、ポピュラー指導法 (1)、エンターテインメントビジネス実習 (3)	54単位 (30%)
専門科目と専門基礎科の合計		118単位 (66%)
教養科目	教養必修科目 (45)	45単位 (25%)
特別必修科目	DAW (2)、Sibelius Notation (1)、Logic (2)、Pro Tools (4)	9単位 (5%)
選択科目		8単位 (4%)

合計 180単位 (100%)

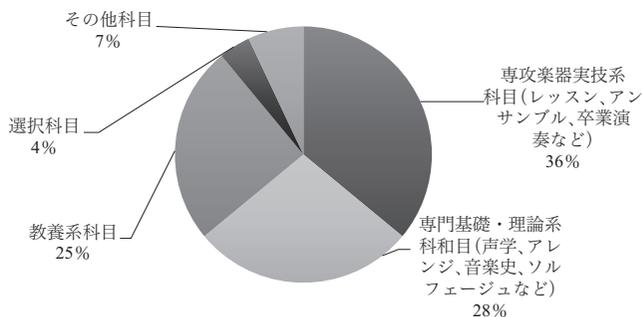


Figure 3. Musicians Institute 実技系と理論系、その他の科目の割合

小規模のポピュラー・ジャズ系専門音楽単科大学である。民間音楽学校としてスタートし（1977年開校）、学士学位授与認定校としても歴史が浅いが近年は修士課程も設置され、高度専門職大学としての要素を持つ大学である。このカリキュラムの特徴としては、NASMの基準に沿った内容ではあるが、専門科目群はレッスンやアンサンブルなど実技系科目のみで構成され、また音楽基礎科目においてはクラシック音楽の伝統的な科目を最小限に抑え、本来専門科目として組み込まれる要素がある科目（ポピュラー指導法、ポピュラー音楽史、ポピュラー音楽理論、アレンジ実習など）を読み替えて充当していることである。また、DAWをはじめとする電子メディア関連の授業が特別な必修となっており、他大学にはない特徴である。自由選択科目数は少なく、また音楽家にとって実社会での活動に必須な教養科目は全体の30%を占めており、今後ますます発展するこの分野の人材を育成する上では、より実用性のある教育内容であると言える。

#### 洗足学園音楽大学（神奈川県）

修業年限4年間 学士課程（音楽学科 ジャズ専攻コース/ロック&ポップス専攻コース）

卒業要件：124単位（洗足学園音楽大学，2018）

Table 4

洗足学園音楽大学 124単位の内訳		
科目群	科目名（単位数）	単位合計数（%）
専門科目	実技レッスン（24）	24単位（19%）
選択科目	専門科目、専門基礎科目、教養科目より自由選択	100単位（81%）

合計 124単位（100%）

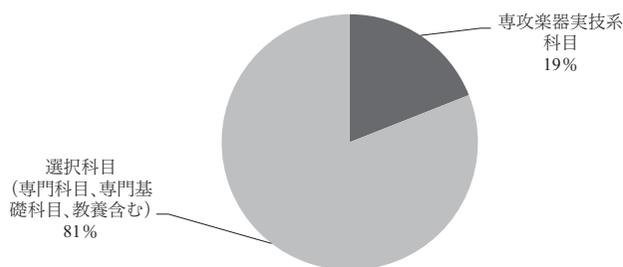


Figure 4. 洗足学園音楽大学 実技系と理論系、その他の科目の割合

本プログラムの特徴としては、学生の自主的な学びを尊重して必修科目単位を最低限に定め、自由選択科目単位が81%を占めることである。これは日米の他大学と比較しても特異な点である。必修科目は実技レッスンであるが、自由選択科目群は音楽専門大学として通常の科目（和声学、ソルフェージュ、音楽史など）はもとより、専門科目群においてはかなりの数の専門化された多種多様の科目が充実している（ジャズ和声1-6、アンサンブル、レコーディングセッション、実技ラボ、即興演奏、ジャズ作・編曲、ジャズ・

ポピュラー史、卒業研究など)。そのため、学生それぞれが自身のスタイル確立を前提に、最も効率よく専門性の強い学修が可能なプログラムである。その一方で、本人の学修へのモチベーションの程度に沿って、自身のカリキュラムを幅広く選択肢の多い環境でデザインできることも特徴である。

### 昭和音楽大学（神奈川県）

修業年限 4 年間 学士課程（音楽芸術表現学科 ポピュラー音楽コース）

卒業要件：124 単位（昭和音楽大学，2018）

Table 5

昭和音楽大学 124 単位の内訳		
科目群	科目名 (単位数)	単位合計数 (%)
専門科目	実技レッスン&ポピュラー演奏法 (32)、アンサンブル (12)、卒業ライブ (1)、ポピュラー音楽概論 (4)、音楽人基礎 (3)、サウンドクリエイト (4)、芸術特別研究 (2)、リズムトレーニング (1)	59 単位 (48%)
専門科目		59 単位 (48%)
選択必修科目	英語 (8)、実技系科目 (2)、理論系科目 (4)、実習系科目 (4)	18 単位 (14%)
選択科目	音楽専門科目、教養科目	47 単位 (38%)

合計 124 単位 (100%)

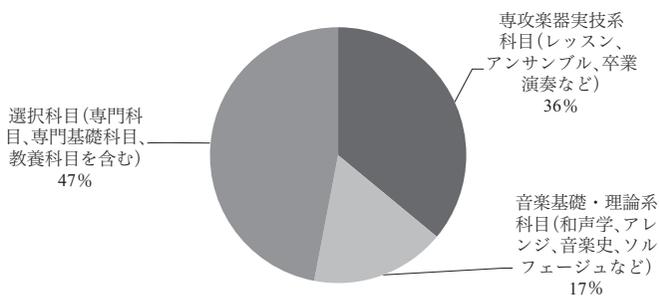


Figure 5. 昭和音楽大学 実技系と理論系、その他の科目の割合

本プログラムは、専門科目群における実技系科目に割合が高く、理論系科目に関しては専門基礎科目群の必修を含めても比較的少ない構成となっている。特徴としては、「音楽人基礎」というポピュラー音楽家としてのキャリア教育科目が3単位が必修であり、さらに英語が8単位必修である点である。これは修了生の実社会での活動を考慮した内容であろう。自由選択科目は教養科目と音楽専門基礎科目が混在しており、カリキュラム全体における割合も高い。選択科目の履修内容によって、修了生の演奏スタイルや知識・技術に多様性があることが考えられる。

名古屋芸術大学（愛知県）

修業年限 4 年間 学士課程（芸術学科 ポップス・ロック & パフォーマンスコース）

卒業要件：124 単位（名古屋芸術大学，2018）

Table 6

名古屋芸術大学 124 単位の内訳		
科目群	科目名（単位数）	単位合計数 (%)
専門科目	実技レッスン (32)、アンサンブル (4)、音楽芸術基礎研究ポップス・ロック (2)、ポップス・ロック論 (2)、パフォーマンス論 (2)、卒業研究・ライブ (4)	46 単位 (37%)
専門基礎科目	和声学 (8)、ソルフェージュ (4)、ピアノ (2)、声楽・合唱 (4)、指揮法 (2)、西洋音楽史 (2)、邦楽 (2)、音楽制作実習 (2)、作曲実習 (1)、録音音響デザイン研究 (4)	31 単位 (25%)
専門科目と専門基礎科の合計		77 単位 (62%)
専門選択科目		5 単位 (4%)
教養科目		42 単位 (34%)

合計 124 単位 (100%)

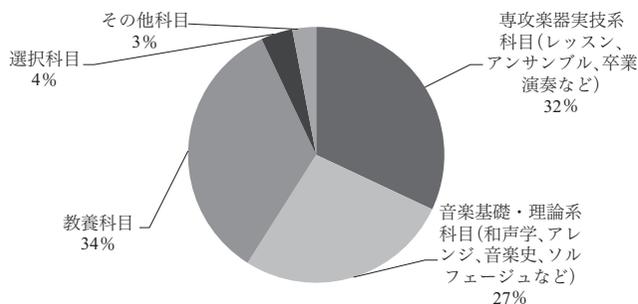


Figure 6. 名古屋芸術大学 実技系と理論系、その他の科目の割合

本プログラムの大きな特徴としては、専門科目、専門基礎科目、教養科目、選択科目のそれぞれの単位数の構成がバランスよく配置されており、米国の NASM アクレデーション基準にも相当していることである。それぞれの科目群の構成としては、米国大学と比較した場合、専門科目群における実技レッスンや卒業ライブの単位数が占める割合が高い。しかし、これは日本の他大学についても共通している事である。専門基礎科目の必修単位数は多く、教育カリキュラムとして充実している。カリキュラム全体としては、クラシック音楽演奏専攻コースカリキュラムと共通している科目が多く、ポピュラー音楽に関する専門基礎科目が比較的少ない。その点を改善できるのであれば、日本におけるポピュラー音楽人材育成プログラムとして、唯一米国基準に相当する質の高いものとなるであろう。

### 3. 考察

以上の比較調査を踏まえて、日米の大学におけるポピュラー音楽人材教育プログラムについて考察する。

先ずは、米国大学ではNASMの基準に沿ったカリキュラム構成となっており、それぞれの大学による教育内容の特徴や詳細な科目の相違はあるにせよ、ポピュラー音楽人材教育プログラムとして共通の教育内容が確立されていることがわかる。この点について日本の大学では、各大学独自のカリキュラム構成のもとに人材教育を行なっている。大学でポピュラー音楽を専門に学んだ人材が、どのような技量や知識を備えているかを実社会で認知され活躍できる環境を作るためには、日本でも米国のように共通したカリキュラム基準を設定し、それを取り入れる努力が必要である。

次に、それぞれの科目群についての相違点について述べる。実技系の科目（レッスン、アンサンブルなど）がカリキュラムの中心となっている点においては、日米共通である。しかし、これに関して注目すべきは、実技レッスンにおける実施時間と設定される単位数の関係である。米国大学では毎週のレッスン実施（通常40～50分）で毎学期に1～2単位設定が平均であるが、日本の大学では同等のレッスンに対して3～4単位で1.5倍から2倍となっている。この差は卒業時までには受ける総計レッスン時間に大きな差が生じることは否めない。日本の大学におけるこの現状は、言い換えれば、卒業要件の124単位数の内で実技レッスンが占める割合が高くなることであり、それは結果として、音楽の知識や教養を学ぶ他の科目単位取得の制限となっている。他の改善すべき点として、日本の大学における読譜トレーニング必修化の低さも挙げられる。米国大学の2校（Berklee College of Music, Musicians Institute）では読譜トレーニング科目が必修であり、University of Southern Californiaでは必修でないものの、代替科目としてのアンサンブルの必修単位が多く設定されている。特に、クラシック音楽演奏のプログラムの学生とは異なり、自己流での学習やバンドやカラオケでの演奏経験程度しか持ち合わせていない学生が多く入学してくるポピュラー系のコースでは、読譜と演奏系の科目をバランスよく必修化する必要がある。

専門基礎科目群においては、米国大学では専門科目群をサポートする科目群が設置されており、それぞれの科目群の関連性が明確で効率の高い教育が行われる仕組みができている。一方日本の大学では、それぞれの大学の専門科目と専門基礎科目が独自の構成となっているため共通した一貫性は認められない。教養科目群と選択科目群の単位数配分についても、日本の大学間で共通した割合はなく、大学によりカリキュラム履修の自由度が大きく異なる。概して、日本の大学ではポピュラー音楽全体を自由度の高いカリキュラムで学べるか、あるいはクラシック音楽系必修科目が高く自由度が低いかのどちらかに偏っているということが言える。

米国大学の更なる特徴として、専門基礎科目と教養科目のビジネス関連科目、キャリア

教育関連科目、ミュージシャンの心構えに関する科目（健康、社会との関わりなど）が必修となっていることが挙げられる。ポピュラー音楽人材にとって、これらの科目も専門基礎教育と米国大学では捉えており、音楽以外の知識やスキルが専門家としての資質に重要であるという認識を持っていると考えられる。また、ポピュラー音楽史の単位数や電子メディア関連の授業が必須になっている点も NASM の基準どおりであるが、このような演奏以外の教育や音楽産業分野科目の充実も米国大学では伺える。長年のポピュラー音楽人材教育の歴史を持つ米国大学を参考に、日本の大学も共通の一定基準のもと、ポピュラー音楽の専門的な学びと現実的な実社会との活動を関連付けられるカリキュラム構成を検討していくことが、今後の大きな課題であると考えられる。

## 註

- 1) 米国音楽大学ランキング資料として米国大学 Web サイトでも参照される“Best Music Colleges”および“The Best Schools-The 20 Best Music Conservatories in the U.S.”より選定した。
- 2) 洗足学園音楽大学ではロック&ポップスコースとジャズコースのカリキュラムにおいて、レッスン授業やアンサンブル授業の名称などの違いを除き、基本的に相違ないと判断したのでまとめて一つのコースとして扱った。
- 3) 米国大学ではポピュラー系の専攻は Jazz Studies として扱う歴史があることに準拠する。
- 4) 科目名称等の訳は引用者による。

## 参考文献

- 上田浩司. アメリカの音楽系大学留学ガイド. 三修社. (2003)
- 上田浩司. ポピュラー音楽に関する英語表現文例集の作成. 名古屋学院大学大学院外国語学研究科修士論文 (未公刊). (2009)
- 山田礼子. プロフェッショナルスクール. 玉川大学出版部. (1998)
- National Association Schools of Music (NASM). Hand Book 2017-2018. Retrieved from <https://nasm.arts-accredit.org/accreditation/standards-guidelines/handbook/>. (2017)
- Berklee College of Music. 教育課程表ページ. Retrieved from <https://www.berklee.eduprofessional-performance/major>. (2018)
- University of Southern California. 音楽専門教育課程表ページ. Retrieved from [http://catalogue.usc.edu/preview\\_program.php?catoid=8&poid=7905&returnto=3397](http://catalogue.usc.edu/preview_program.php?catoid=8&poid=7905&returnto=3397)
- Musicians Institute. 教育課程表オンラインカタログ. Retrieved from <https://www.mi.edu/degrees/bachelor-of-music/>. (2018)
- 洗足学園音楽大学. 教育情報ページ. Retrieved from <https://www.senzoku.ac.jp/music/about/data.html>. (2018)
- 昭和音楽大学. 修学に関する情報ページ. Retrieved from [https://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/information/syugaku\\_H30.html](https://www.tosei-showa-music.ac.jp/guide/information/syugaku_H30.html). (2018)
- 名古屋芸術大学. データブック2018. Retrieved from <http://www.nua.ac.jp/relation/disclosure/pdf/databook.pdf>. (2018)